学校番号	３０３５

令和８年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	（学）発展美術	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	無し						
副教材等	無し						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技能】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	発展美術へのアプローチ	【鑑賞】 過去から現代までの作品を鑑賞し、多様な表現形式について学び、「発展美術」の学習イメージを膨らませる。	c:美術の多様な表現形式に触れ、その中で、主体的に深く興味を抱いた事柄の探求に取り組もうとしている。（主体的に取り組む）			ワークシート 授業観察
	カラーチャート	【絵画・彫刻】 ・色彩応用 色彩の3属性を深く理解するために、アクリル絵具を使ってカラーチャートを作成する。	a:有彩色と無彩色の混色の程度によりトーンが形成されることを理解する。（知識・技能）	カラーチャート		
	森の価値を広めるためのイラストをガラスフュージングの技法を用いてランプシェードとして表現する	【デザイン】 （試作） ガラスフュージングの技法を用いて試作品を制作する。 （本制作） ・フォルムの構成 具象形体を複数組み合わせてレイアウトする。構成原理と琳派の表現を参考にして構成する。 ・色彩の構成 固有色に拘らずにトーンの分類に基づいてフォルムを生かす発色で構成する。 ・形体と色彩のオリジナルな切り口による新たな造形世界を展開する。 ・お互いの作品を鑑賞し合って、多様な美意識に触れる。	a:ガラスフュージングの技法の特性を理解する。（知識・技能） b:日本固有の伝統的な琳派の表現方法を参考にして動的バランスの構成をしている。（思考・判断・表現） c:ガラスフュージング固有の技法を表現に生かそうとしている。（主体的に取り組む）	試作	本制作	本制作 授業観察

	デッサン基礎	【絵画・彫刻】 ・クロスハッチングと グラデーション ・幾何形体のデッサン	a:クロスハッチングの技法で 明度差の段階を表現できることを理解する。（知識・技能） a：幾何形体の構造的な把握と陰影による立体感の表現（知識・技能）	グラデーションの作品 幾何形体のデッサン		
後期	カラーチャート	【絵画・彫刻・鑑賞】カラーチャートの　応用	a:色彩と視覚効果を習得する。 （知識・技能） b:色彩の効果を利用し、表現してみたい感情をとなるような各色の組み合わせを実践する。(思考・判断・表現) c:イメージを表現するための組み合わせを総合的に考えて構想を練り、意図に応じて創意工夫し、創作に取り組もうとしている。（主体的に取り組む）	試作	本制作	授業観察 本制作
	森の価値を広めるためのイラストをステンシルの技法を用いてランプシェードとして表現する	【デザイン】 (試作) ステンシルの技法を用いて試作品を制作する。 (本制作) ・フォルムの構成 具象形体を複数組み合わせてレイアウトする。構成原理と琳派の表現を参考にして構成する。 ・色彩の構成 固有色に拘らずにトーンの分類に基づいてフォルムを生かす発色で構成する。 ・ハトメ抜きによる新たな造形世界を展開する。 ・お互いの作品を鑑賞し合って、多様な美意識に触れる。	a:ステンシルの技法の特性を理解する。（知識・技能） b:日本固有の伝統的な琳派の表現方法を参考にして動的バランスの構成をしている。(思考・判断・表現) c:ステンシル固有の技法を表現に生かそうとしている。（主体的に取り組む）	試作	本制作	本制作 業観察

	静物デッサン	【絵画・彫刻・鑑賞】 ・静物デッサン モチーフをよく観察し、フォルムを正しく表現し、明暗　及び質感にも留意し、モチーフに纏わる空間まで表現する。	a:基本形体の立体感と質感の特徴を把握し、陰影の効果的な表現方法を理解している。(知識・技能) b:複数のモチーフの置かれた空間の光と影のハーモニーの美しさを感じ取り、知識や技能を活用して統一的な空間を創造できるように構想を練って表現している。（思考・判断・表現） c:個別具体的な事柄から空間的な関連性に興味を持って、表現の可能性を拡げていく創造的な活動に取り組もうとしている。 （主体的に取り組む）	静物デッサン	静物デッサン	授業観察 静物デッサン

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度